

平成24年度沖縄群島病害虫発生予報第6号(9月予報)

I 9月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	30	60	20
平 年 並	40	30	40
低い(少ない)	30	10	40

(平成24年8月24日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	27.6	30.4	25.5	260.5	188.9

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

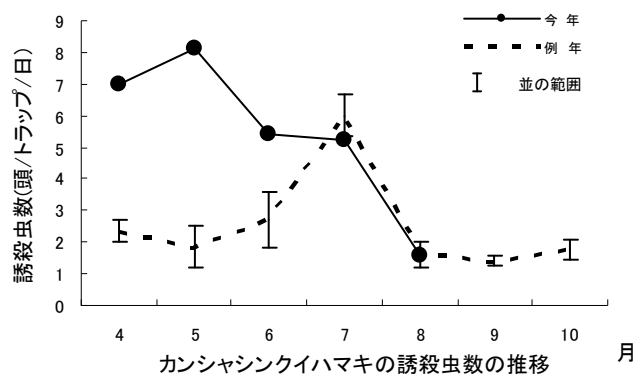
II 9月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

(1) カンシャシンクイハマキ

発生程度 : 並

8月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.6頭(前年0.6頭、平年1.6頭)と例年並であった。

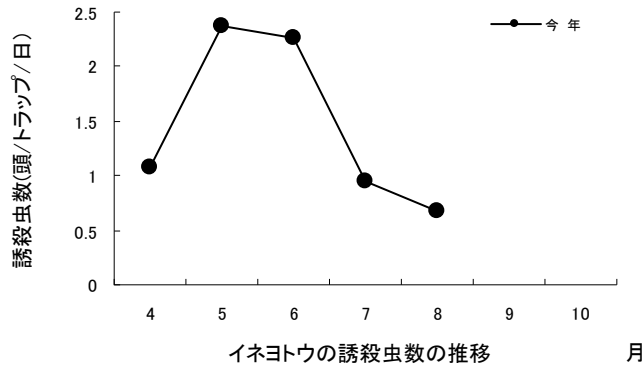


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 植付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号参照(9月発表予定)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 8月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.7頭であった。
- b 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。

2 かんきつ(タンカン、シークワーサー)

○ かいよう病の防除対策

- a 8月下旬の調査の結果、一部の圃場で発生がみられた。
- b 病害虫防除員からの報告によると、8月の発生程度は中であった。
- c 罹病した夏秋枝は翌年の伝染源となるので除去する。
- d 台風通過前後に薬剤防除を行う。
- e 傷口感染することから、ミカンハモグリガの防除を徹底する。

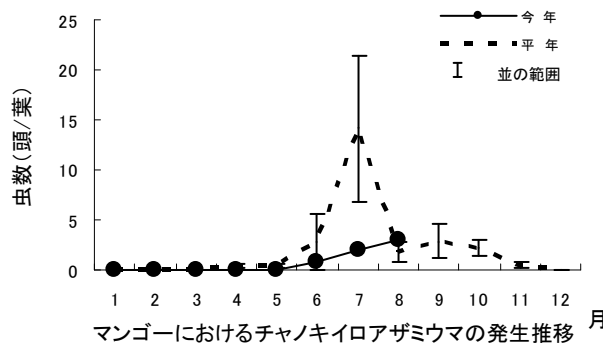
3 マンゴー

(1) チャノキイロアザミウマ

発生程度 : やや多

予報の根拠

8月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は3.1頭(前年0.2頭、平年1.9頭)と平年よりやや多かった。



<防除上注意すべき事項>

- a 新梢の発生が早い園地では、本種の発生時期が早くなることから、新梢をよく観察し、初期防除を徹底する。
- b 灌水を行う際、噴霧機などで本種を洗い流すように散水し、密度低減を図る。
- c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。

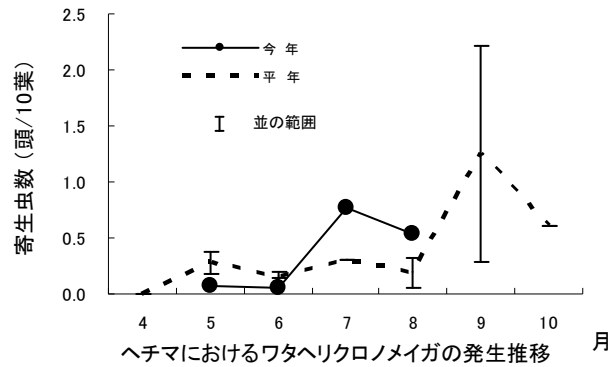
○ かいよう病の防除対策

- a 台風等による折損等の傷から細菌が侵入し発病することから防風対策を図る。
- b 罹病した部位は速やかに施設外に持ち出し、焼却等の処分を行う。
- c 罹病枝を剪定した後の剪定器具の消毒を徹底する。

4 へちま

- (1) ワタヘリクロノメイガ
発生程度 : 多
予報の根拠

8月下旬の調査の結果、10葉当たり虫数は0.5頭(前年0.3頭、平年0.2頭)と平年より多かった。



<防除上注意すべき事項>

- a 老熟幼虫は巻葉内にいて薬効が低いので、若齢期の防除が望ましい。
- b 殺虫剤は、若齢虫が生息する葉裏に掛け残しがないよう丁寧に散布する。